

T-Navvi

これからの小学校教育を考える！ 情報マガジン
[ティナービ・エデュ]



巻頭言

明示的な指導



上智大学教授
[中央教育審議会委員]
奈須 正裕

道徳

新教科書の特徴



敬愛大学教授
土田 雄一

理論編

実践編



筑波大学附属小学校教諭
加藤 宣行

道徳授業

誌上チェック
&
アドバイス



筑波大学附属小学校教諭 加藤 宣行
佐倉市立寺崎小学校教諭 藤田 文子

体育

【特別対談】日本体育大学教授 白旗 和也 × スポーツ庁政策課教科調査官 塩見 英樹

今知りたい 体育の授業づくり



日本体育大学教授
白旗 和也



スポーツ庁政策課教科調査官
塩見 英樹

保健

令和6年度版 小学校保健教科書

～子どもたちと考えたい～

自分も相手も大切にする コミュニケーション

東京学芸大学名誉教授 渡邊 正樹



～子どもたちの安全を守るために～

生命の安全教育の実践

東京学芸大学附属竹早小学校養護教諭 田岡 朋子



光文書院発行の 教育情報誌です。

今、必要な最新の教育情報を
詳しくやさしく
お伝えしていきます！

※2023年度は年間1回（今号のみ）の
発行となります。

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

CONTENTS

小学校現場で
ご活躍されている
先生方の
力になります！

役立つ
情報満載



明示的な指導

» P.3~6

学習経験の関連づけ・比較を通して、何を学んだのかを子どもたちにはっきりと提示する**明示的な指導**。その目的や効果、指導の進め方についてご示唆いただきました。
奈須 正裕先生▶



道徳

新教科書の特徴（理論編） » P.7

道徳授業 誌上チェック&アドバイス » P.8~9

新教科書の特徴（実践編） » P.10

体育

【特別対談】

日本体育大学
教授
白旗 和也

スポーツ庁政策課
教科調査官
塩見 英樹

今知りたい体育の授業づくり » P.11~15

保健

~子どもたちの安全を守るために~
生命の安全教育の実践 » P.16~17

令和6年度版小学校保健教科書
~子どもたちと考えたい~

自分も相手も大切にコミュニケーション
» P.18

お知らせ

【光文書院からのお知らせ】
デジタルドリル「ドリルプラネット」
8月末アップデートのお知らせ » P.19

▶▶▶ 読者参加型情報誌を目指してまいります

ご要望をお寄せください！



私の道徳実践を達人先生
に助言してほしい！

道徳指導や実践経験の豊富な先生に、
本誌上で助言をいただけます。

取り上げてほしい情報やご意見を、
弊社 Web サイトを通してお寄せください。

お問い合わせフォームはこちら

ご意見・ご感想は、
弊社Webサイトを通して
お寄せください！



公式Twitterはこちら

Twitterでも募集中！
ハッシュタグ「#なるほどいー
なび」をつけてつぶやきをシェ
アしてください！



巻頭言

明示的な指導

先々の学びに生きる概念的理解を子どもにもたらすために、
学習経験の関連づけ・比較を通して、何を学んだのかを
はっきりと明示する指導が必要です。



上智大学教授
(中央教育審議会委員)
奈須 正裕

子どもの学びを内容系統で構想する

教師の関心は、ともすれば45分（1単位時間）
の授業をいかに効果的に展開するかに集中しがち
ですが、子どもの学びや育ちをもっと長期的なもの
です。

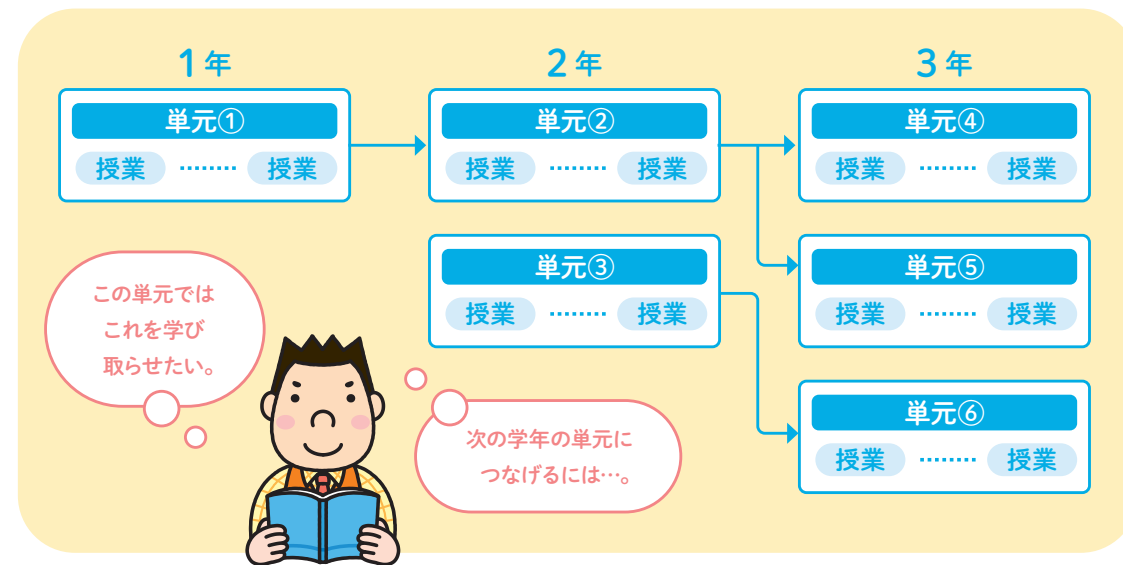
少なくとも、その単元の8時間なり10時間なりで
子どもに何をどう理解させたいのか、しっかりと押
さえる必要があります。さらには、単元や学年を超
えて、その教科の内容系統を通して子どもに学び取
らせたいものを意識した授業づくり、カリキュラム
づくりが望まれます。

学習経験を関連づけ俯瞰的に眺める

本来、学びは文脈や状況に強く依存しており、相
互に孤立した45分の授業をただ積み上げただけで
は、子どもは多様な学びの経験を関連づけ、そこ
に一貫した意味を見出すことなど、ほとんどできま
せん。

たとえば、5年生理科の振り子の実験で「どんな
工夫が必要かな」と問えば、子どもたちはさまざま
に試す中で「振り子が往復する時間を何度も計って
平均値を取ればよさそうだ」と気づきます。この段
階で教師は「誤差の処理」を理解したと思いがちで

資料1 内容系統を意識した授業・カリキュラムづくり



T-Navi Edu

T-Navi Edu(ティーナビ・エデュ) Vol.15

発行 2023年7月
編者 小学校若手教員サポート研究会
著作兼 長谷川 知彦
発行者

株式会社光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町14
TEL 03-3262-3271(代)
URL https://www.kobun.co.jp/
印刷・製本 三松堂株式会社

◇表紙・本文デザイン：Tokyo A
◇本文イラスト：熊アート

すが、いまだ「振り子」という具体的な対象や文脈との関わりでの気づきに留まっており、「誤差の処理」という抽象的で統合的な概念的理解には到達していません。

そこで、授業の最後に「どうして今日の実験では結果の数値を何度も計っていたの」と尋ねると、子どもたちは「理科の実験では正確なデータを取るために、いつもそうしているから」と答えます。ここで「そうかなあ。この前の検流計のときには何度も計ったりしていなかったよ」と切り返せば、子どもたちは「だって、検流計はピタリと針が止まるから。ああ、そうか、同じ実験でもいろいろな場合があるんだ」とようやく気づくのです。

そこで、この気づきを契機に、これまでの実験や観察の経験を総ざらいで整理し、それぞれの工夫を比較しながらその意味を丁寧に確認する授業を実施します。そして、整理の過程で見えてきた、理科の実験の成否を左右する「条件制御」「系統的な観察」「誤差の処理」等について、今後子どもたちが自在に操れるよう「教科の言葉」でそれ

ぞれの名称をしっかりと確認するとともに、それらを用いて新たな実験や観察について思考を巡らせる機会を設けるのです。何をどのように学んだかが誰の目にもはっきりとわかる明示的な指導を、段階を追って丁寧に進めることにより、次第に子どもたちは科学の方法論やその背後にある論理を深く理解していくでしょう。

いかに科学的な原理にのっとった実験や観察であっても、単に数多く経験しただけでは、科学的な「見方・考え方」や方法論を身につけ、自在に繰り出せるようになるには不十分です。表面的には異なる複数の学習経験を俯瞰的に眺め、相互に関連づけたり比較したりし、そこに共通性と独自性を見出すことで、統合的な概念的理解へといたさう必要があります。

「お道具箱」の整理

明示的な指導は、国語科でも奏功します。たとえば、5年生の子どもに4年生までの教科書を全部持ってこさせ、すべての説明文教材について、そこで何を学んだかを尋ねます。多くの場合、子

どもたちは「種を遠くまで飛ばすためのたんぼぼの知恵」とか「大豆をおいしく食べる工夫」などと言うでしょう。学びが、教材文の題材や対象との関連に留まっているのです。

そこで、題材や対象のことは一旦脇に置き、純粹に形式的な意味でどのような読解の着眼や方略を学んだのかを確認していきます。少し時間はかかりますが、徐々に「問いと答えの応答関係」「具体例を挙げる順序」「時間の順序や経過を表す言葉への注目」「接続詞の順接と逆接」「事実と意見の書き分け」「題名に込められた意味」などが、子どもなりの表現で想起されてくるはずですが、さらに、複数の学年の学びを俯瞰的に見ていくなれば、「問いと答えの応答関係」一つをとっても、実に多くの学びを経験してきたことが自覚されるでしょう。

各教材を通して、子どもたちは多くのことを学んでいます。しかし、それぞれの教材で教えたはずの読解の着眼や方略、いわば読解の「お道具」に明確な名前がついておらず、さらに子どもたちの「お道具箱」が一度も整理されていない点に、問題があったのです。

子どもたちはなかなかにより「お道具」をもっているのですが、それをもっていることを自覚していないため実際に使うことができません。ある

いは、使っていないものをどう使っているのか明晰には自覚していないので、読解には使えても文章作成では使えません。読解で学んだ着眼や方略は、最終的には文章作成に駆使できるところまでを視野に入れるべきでしょう。すると、どうしても個々の「お道具」の自覚化と命名、さらに「お道具箱」の整理が不可欠です。

「お道具箱」の整理が終わったら、さっそくこれを駆使してみましょう。命名した「お道具」の数々を紙に記して教室の壁に貼り、いつでも参照できるようにして、5年生の教科書にある説明文教材を読ませてみるのです。すると、国語が苦手だった子どももいきなりスラスラと、かなり正確に読解できることに驚かれると思います。

と同時に、「こんな書きぶりは初めてだ」という文章箇所も子どもたちの目に留まるでしょう。それこそが、この教材を通して5年生で新たに学ぶ内容ですから、「なぜそのような書きぶりをしているのか」という切り口から学びを深めていきます。

もちろんここでも、すでにもっている「お道具」との積極的な比較や関連づけにより、今回の教材文で新たに見出した説明文読解の「お道具」の特徴や位置づけを明確にしていくことが大切です。

資料2 「誤差の処理」の明示的な指導

振り子の実験では結果の数値がばらばらだね。

検流計はピタリと針が止まるよ。

これまでの実験や観察を振り返り、それぞれの工夫を比較しながら意味を考える

実験の結果にばらつきがあるときは「誤差の処理」をする必要があるんだね。

次の実験でも「誤差の処理」をする必要があるのか考えなくちゃ。

何を学んだのか「教科の言葉」で明示する

新たな実験や観察について思考を巡らせる

資料3 読解の「お道具箱」

「接続詞の順接と逆接」という「お道具」だよ。どんなときに使えるかな。

「逆接」の接続詞があると後ろの文は前の文と反対の意味だとわかるよ。

「問いと答えの応答関係」と同じで、文の関係を知ることができるね。

「しかし」の前と後ろの文は反対の意味になるみたい。

接続詞の順接と逆接

事実と意見の書き分け

具体例を挙げる順序

時間の順序や経過を表す言葉への注目

問いと答えの応答関係

学びを生かして先回りできる子どもに育てる

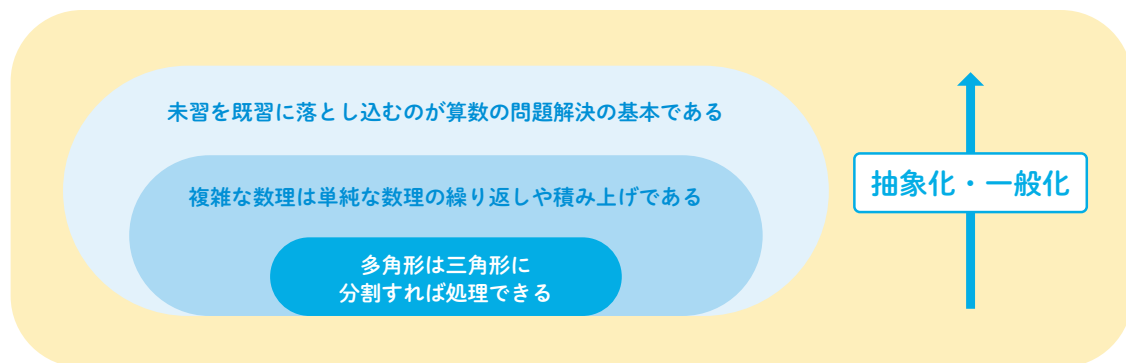
5年生算数科で学ぶ多角形の内角の和の学習では、どんな多角形も基本図形である三角形に分割すればうまく処理できるという概念的な理解が鍵となりますが、これは多角形の面積の学習でもそのまま活用できる知識です。

したがって、多角形の面積の学習に入るときに「このことを勉強するのははじめてだけど、似たような勉強は前にもやったよね」と投げかけてみます。最初こそ子どもたちはポカンとしていますが、教師の言っている意味を一度理解したならば、そこから先は早いでしょう。数か月後には、子どもの方で先回りをして「今日から勉強することに、前に教わったあのことが使えるんじゃないかなあ」と言うようになります。

このような指導を徹底したある学校で、算数の授業の冒頭に「さて、今日の基準量は何かな」とつぶやく子どもに出会って驚きました。6年生算数の学習内容の多くは「基準量×割合」という構造をもっていますが、子どもたちはすでにこれに気づいており、自ら進んで新たな学習内容に活用していたのです。

ちなみに、多角形は基本図形である三角形に分割すれば処理できるという知識をもう一段抽象化すれば、複雑な数理は単純な数理の繰り返しや積み上げとして再表現できるという着眼になります。さらに一般化すれば、未習を既習に落とし込むのが算数の問題解決の基本であるという理解に到達するでしょう。このように、その教科の主要な概念の多くは重層的な構造を成しているのです。

資料4 算数科の概念の重層的構造



まとめ

今こそ求められる各教科の内容系統への理解

これまで述べてきたような授業を実践するには、各教科の内容系統に関する理解が不可欠です。それも、既習事項を確認するといった上から下に向けての系統の把握だけでなく、今教えていることが先の学年や学校段階でどのように発展していくか、そのために今何を押さえるべきかという、下から上に向けての系統の研究が望まれます。

その意味では、いちばん難しいのは1年生です。たとえば算数でも、答えを出せるようになるだけなら1年生の指導はさほど難しくありませんが、先々の学びを支える概念的な理解を目指す、一気に難しくなります。しかし、教師がそこを校内研究で学び深めることで、低学年の授業の質は一気に高まるでしょう。ぜひ、挑戦してほしいと思います。



敬愛大学教育学部 教授 土田 雄一

道徳

新教科書の特徴

理論編

1 育てたい子どもの姿

まず、今回の教科書改訂にあたり、光文書院の新しい教科書が目指す子どもの姿について示します。

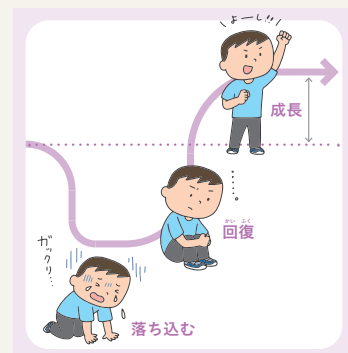
- 人間のよさを追い求め、たくましく自分の生き方を考え続ける子ども
- 自分を見つめ、深く考える子
- ものごとを多面的・多角的に考える子
- 自ら問いをもつことができる子
- へこんでも立ち直ることができる子

学習指導要領を踏まえて、これらの姿を実現するための教材や指導方法を考えながら、教科書を作成しました。以下、令和6年度版教科書の特色を解説します。

2 へこんでも立ち直る力の認識

誰でもつまづくことやへこむことがあります。その原因や、へこんでいる期間には個人差があります。しかし、誰もがへこんでも立ち直る力(レジリエンス)をもっているのです。その力を引き出し、高めることが、新教科書のねらいです。発達段階に応じて全学年に「へこんでも立ち直る力」を考えるコラムを掲載し、教材と関連させながら身につくようにしました。

「へこんでも立ち直る力」を考える教材の一つに『四本の木』(5年)があります。大風で折れた一樹を見た三本の木(大樹・優樹・友樹)は、どうしたら折れない木になれるのか考えます。大樹はしっかりと根を張り、幹を太くし、強い木を目指します。優樹はしなやかで柔軟な木



▲新教科書のレジリエンスコラム 5年「立ち直り曲線」

を目指します。友樹は仲間と共に森をつくってみんなで支え合います。一方、折れた一樹も新しく芽を出し、新しい成長を始めるというお話です。

ストーリーはわかりやすく、大人でも考えさせられる内容です。大学の講義や教員の研修でも紹介してきましたが、たいへん好評でした。また、交流活動の一環で訪れたフィリピンの子どもたちとの授業でもたいへん有効でした。どの木に共感してもよいですし、四本の木の生き方から自分なりの生き方を考えることができます。

3 ものごとを多面的・多角的に考えるための「思考ツール」の活用

これからの子どもたちには「ものごとを多面的・多角的に考える力」が必要です。そこで、新教科書ではオリエンテーション「いろいろなやり方で考えてみよう」を充実させ、「思考ツール」の活用について触れています。「クラゲチャート」「ウェビング」「Yチャート」「フィッシュボーン」などの考えるツールは、ねらいを達成したり、自分の生き方を考えたりするためのものです。思考ツールを活用しながらさまざまな視点でものごとを見つめ直すことは、自分のよりよい生き方を考えることにつながります。実生活で問題に直面したときや選択に悩んだときに、思考ツールを活用しながら、自分で判断し、行動することができるようになることを目指しています。

4 現代的課題への対応 ~情報モラル・いじめ・人権・ジェンダー・環境・SDGs~

現代的な課題にも対応できるように改訂しました。情報モラルとして、特に「GIGAスクール構想」による一人一台端末の普及について、その光と影の部分をも道徳でも扱っていきたいと考え、全学年で系統的に関連する教材と「コラム」を位置づけています。その他、いじめの問題、人権・ジェンダーに関する問題、環境に関する問題、SDGsに関連する問題なども取り上げています。

道徳授業を基盤として、一人ひとりの子どもたちがたくましく、自分のよりよい生き方を考え続ける姿勢を身につけてほしいと願っています。

道徳授業 誌上チェック&アドバイス

教えて！
加藤先生

筑波大学附属小学校
加藤 宣行



4年

【主題名】
生活をささえてくれている人たち

【教材名】
石油列車、東北へ向かって走れ！
(光文書院)

主題を通して考えたいこと

〈感謝〉

- 自分たちはさまざまなつながりの中で、たくさんの人々に支えられているという事実と向き合い、感謝の気持ちを抱き、その思いにこたえられるような自分でありたいと願う心情を育みたい。



©日本貨物鉄道 (JR貨物)

相談者・相談内容：児童の考えを深める授業



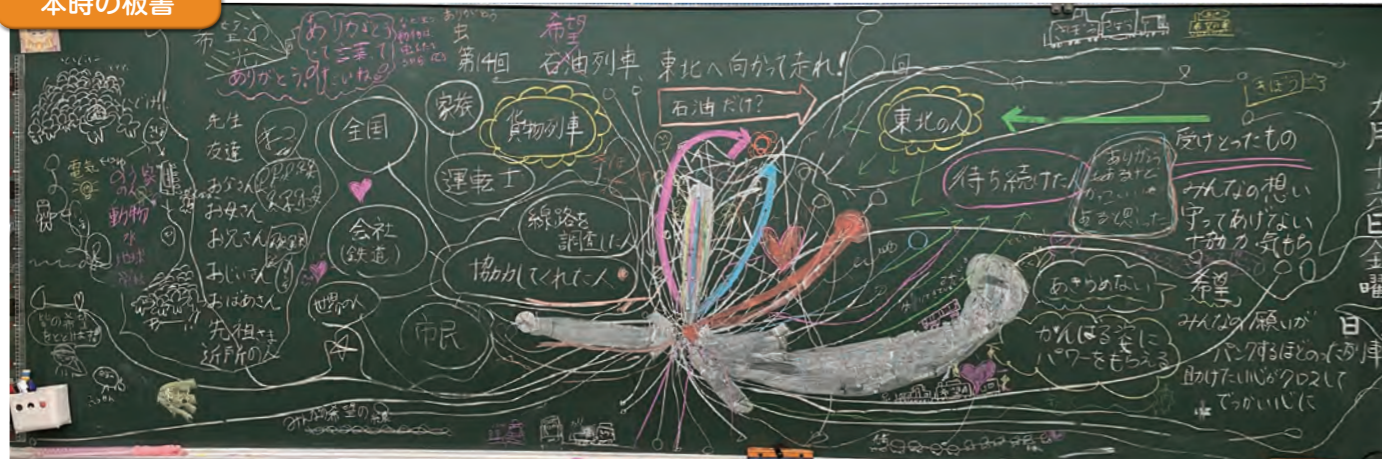
佐倉市立
寺崎小学校
藤田 文子

日ごろから、子どもと板書をつくるようにしていますが、子どもたちの思いがあふれているとき、その時間の軸がどこであったのかが見取りづらくなっていく傾向にあります。今回の場合、感謝の心の広がり子どもたち自身がウェビングで表現し始めていたので見守りました。子ども同士の思いを紡ぎ、思考を深める板書についてアドバイスをお願いします。

本時の展開

学習活動	手立て
○「感謝」の気持ちを伝えたいのは誰かを考え、学習のテーマを設定する。	●自分が「感謝」の気持ちを伝えたい人は誰なのかを共有し合い、教材文と出会う前の自分の思いを明確にする。
○教材文を読み、「感謝」の心がみえるところについて話し合う。	●東北の人たちが「ありがとう」を伝えたいのは誰なのかを考える。 ●お父さんたちが石油列車にのせて、東北の人たちに届けたものは何かを考える。 ●石油列車が走った場所を板書し、その中にみえてくるたくさんの「感謝」の心について話し合う。
○もう一度、「感謝」の気持ちを伝えたいのは誰かを考え、本時の振り返りをする。	●教材文を通して、自分たちはたくさんの人や物などに支えられていることに目を向ける。 ●授業の導入時と終末での、自分自身の考えの変容を確認し、誰に対して、何に対して、どんな気持ちを伝えたいのかを見つめ直す。

本時の板書



授業で工夫した点

① 思考ツールを活用した板書

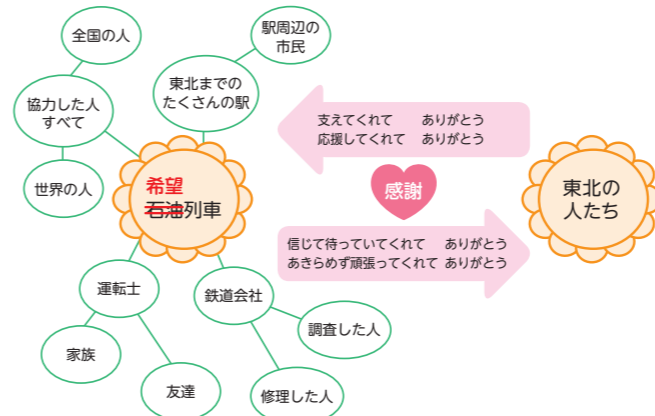
石油列車が走った場所を大きく板書し、その道筋にみえてくる「感謝」の心を子どもたちと一緒に書き加えていった。矢印の色や太さを意図的に変化させることで、人々の思いの深まりやつながりを視覚的にとらえられるようにした。また、ウェビングを活用することで、「感謝の心」の輪が広がっていることにも目を向けられるようにした。

② 子どもから課題意識を引き出す発問の工夫

導入時に「ありがとう」を伝えたい相手について問いかけ、教材文に入ること、子どもたちが考える必然性を感じられるようにした。一つの大きなテーマに向かうような発問をして、考えを話し合い・共有する中で、子どもの言葉を紡ぎながら新たな問いを生み、主体的に学ぶという意識を高められるようにした。

授業の内容 (T:教師 C:児童)

- T: みなさんには、「ありがとう」を伝えたい相手はいますか。
C: お父さん。お母さん。
C: 先生。友だち。
C: ご先祖様??
T: では、今日は、「ありがとう」の気持ちについて考えてみましょう。お話の中に「感謝」の心は、みえるかな。
(教材範読後)
C: 東北の人たちが、お父さんたちに「ありがとう」と思っているよ。
T: 東北の人たちが「感謝」の気持ちを伝えたいのは、石油を運んでくれた人たちですね。
C: いや、違う。それだけじゃないよ。
C: (黒板に書きながら) ここにも駅があってね。そこで応援してくれている人がいたはずだよ。
C: その間に、こっちの線路を直そうとした人もいたよな。
C: テレビで見たことがあるけど、東日本大震災のとき、世界中の人たちが日本を助けてくれたんでしょ。
T: お父さんたちが東北の人に届けたものは?石油だよな。
C: 石油だけじゃないよ。さっきも言ったけど、たくさんの人々の思いもせていたんだよ。
C: 石油列車だけでなく、歩いて助けに行った人もいるかもしれない。
C: たくさんの人々の思いがクロスして、もういっぱいいっぱいになって、石油列車にのらないぐらいになっているよ。
C: じゃあ、東北の人たちはたくさんの人たちに感謝しているよな。
T: なぜ、たくさんの人たちが東北の人たちのために、それほど頑張れたのかな。
C: お父さんたちや石油列車に関わった人たちは、待っている人がいると思ったから頑張れたはずだし、あきらめないで待ってくれた東北の人たちに「ありがとう」とも思ったんじゃないかな。
C: なるほど、本当だ。(黒板に矢印を書き加えながら)
C: じゃあ、もう、「石油列車」じゃなくて「希望列車」だね。



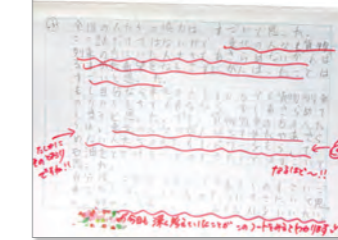
- T: そんなふうには「感謝」の気持ちの広がりがみえると、最初に「ご先祖様」と言った〇〇さんの言葉の意味もわかってきますね。
C: わたしも、「ありがとう」を伝えたい人がたくさんみえてきたよ。
(実際に、石油列車が到着したのを目にした友人の、そのときの思いを伝える。)
T: 「ありがとう」を伝えたい相手を思い浮かべながら、本時のふり返りをノートに書きましょう。

子どもの反応

【A児の振り返り】

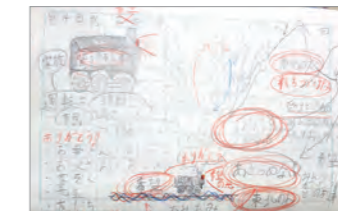


「協力」という言葉からイメージを広げ、東北の人たちのために動き出した人々をウェビングで表現している。

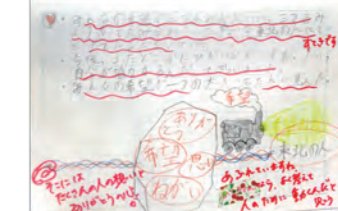


振り返りの文章から、自分自身もたくさんの人たちに支えられていることに気づき、感謝の気持ちを伝えていきたいという思いを抱いていることがわかる。

【B児の振り返り】



教材との出会いや友だちとの学び合いを通して、自分なりに考えたことを、図や矢印、文章で表し、思考を整理している。



多面的に考えを深め、「感謝」の心にとどまることなく、たくさんの人たちの「希望」や「努力」の姿に、心が動いていることがうかがえる。

ここはナイス！
子どもとともに
授業をつくる
姿勢



藤田先生が、「子どもたちと板書をつくるようにしている」とおっしゃっている通り、授業展開も、板書レイアウトや構成も大変ダイナミックなものとなっています。これは先生が子どもたちの可能性を信じて、ともに授業をつくっていくことを楽しもうとされているからこそできることだと思います。子どもたちもそのような展開を受けて、自由な視点で発想を広げている様子が伝わってきます。そのような相互の信頼関係が垣間見えるすてきな板書だと思います。

私ならこうする！
「感謝を生む心」
を明らかにする



「感謝」がメインテーマとなる教材での授業実践であるため、藤田先生は「感謝がどこにみえるか」という問いを一貫して発し、子どもたちの気づきを促しています。それはとてもよいことなのですが、さらに深く追究するためには、「感謝を生む心」を明らかにすることこそ大事です。先生も「なぜそこまで頑張ることができたのか」という問いを出されていますが、私だったらここにもっと時間をかけたいと思います。そこから「いてもたってもいられない心」や「相手のために力を出し合う人々がいてくれることのおかげ」などに焦点化でき、それは真っ直ぐ子どもたち自身の生活に響いていくと思うからです。



筑波大学附属小学校 教諭
加藤 宣行

新教科書の特徴



本稿では、光文書院の新しい教科書の特徴とそれに基づく授業展開について触れていきたいと思ひます。

新教科書の特徴として「子どもたちと授業をつくりていく」という基本理念があります。そしてそれは、授業のみならず、授業後の子どもたちの学びを視野に入れていふ。

新教科書のオリエンテーション「道徳の時間は、こんな時間です」でも、問いを見つけ、考えを深め、授業後へ広げていくという、道徳の学習と日常生活とのつながりを図式化し、学習の流れを紹介しています。



▲新教科書のオリエンテーション「道徳の時間は、こんな時間です」

下に紹介しているのは、私が担任する2年生が授業後に書いた道徳ノートの引用です。

教材名

きれいになつたずこうしつ（勤労、公共の精神）

A児

じゅぎょうをして、社会は一人じゃ生きていけないということがわかりました。だからおたがいたすけ合うということもわかりました。この「おかげ」は、どんなことにもつながっていて、「おかげ」を見つけて「ありがとう」を言えることがよいなあと思ひました。ぼくも人がこまっているときには、どんどんたすけてあげたいし、いろいろな「おかげ」を見つけて、かんしゃの心もちたいです。

B児

今日の夕ごはんでは、学校にいる、トイレをそうじしてくれるおばさんの話になりました。お母さんたちの学校では、トイレも自分たちでそうじをしていたそうです。わたしたちが当たり前だと思ひていることは、当たり前ではないということに気づきました。（中略）わたしはこのたくさんの人たちに学校をささえてもらっているおれいをしたくなりました。

このB児のような「当たり前は当たり前ではない」という気づきを得ることができたのは、授業中に「おかげ」について考えたことが生きていけるといふでしょう。この、子どもたちの授業中、授業後の学びの広がりからわかることは、次の2点です。

- 授業中に「考え→わかる」という学習を行い、視野を広げ、こだわりをもつことができるようになる。
- 授業後に、これまでは気づかなかつたようなことに意味を見出すことができるようになる。

そこで重要なのは「道徳の授業で何をやるか」です。中でも大きな役割を果たすのが、当然のことですが、発問です。そしてそれに連動する板書や道徳ノートです。

たとえば「みんなが使っている図工室は、誰の『おかげ』できれいに（使いやすく）なつているのか」を考えさせます。そのときに、板書やノートに思いつくままに図や文字で「ひと・こと・もの」を書かせて（描かせて）いくのです。

するとあれよあれよという間に、子どもたちはたくさんの「ひと・こと・もの」を見つけ始めます。次にそれらの「ひと」はどんな顔を問ひます。子どもたちは「笑顔」と答えるでしょう。それを受けて「笑顔になるのは誰？」と問ひ返します。

このようにして、いつのまにか「はたらく喜び」について考えを広げ、実践意欲を獲得していくのです。子どもたちに視覚的にはたらきかける思考ツールや板書・道徳ノートの意味と使い方については、新教科書をご覧ください。

特別対談

今知りたい体育の授業づくり

体育はほかの教科と異なり検定教科書がなく、授業づくりに課題を感じている先生も多くおられます。体育の授業づくりに長年携わつてきた白旗先生と、塩見調査官をお迎えし、体育の授業づくりについて、そもそも体育とはどんな教科なのか、よい体育の授業とは、という視点からお話いただきました。



日本体育大学
教授
白旗 和也

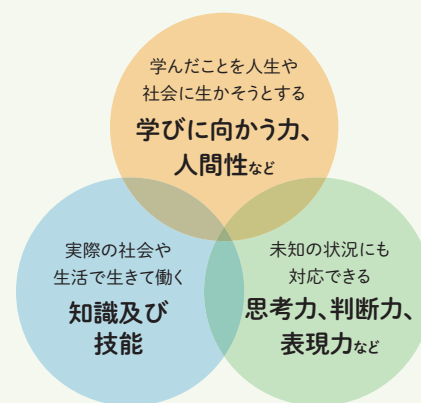


スポーツ庁政策課
教科調査官
塩見 英樹

体育とはどんな教科なのか

白旗：まず初めに、体育とはどんな教科なのか確認していきたいと思ひます。体育の特性について、学習指導要領も踏まえつつ、ご説明いただけますでしょうか。

塩見：学習指導要領の内容は、時代に応じて変わつてきていますが、「子どもたちの生きる力を育んでいく」という大きな方向性は変わつていません。白旗先生はご著書の中で、「体育は生きる力、すべてを育むことができる唯一の教科といえるでしょう」と書かれていて、私も深く共感しました。そもそも「生きる力」とは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つのバランスがとれた力のことを指します。その中で、「確かな学力」について、今一度確認してみましょう。学校教育法で定められた学力の三要素は、学習指導要領において、「育成すべき資質・能力の三つの柱」として整理されています。



出典：文部科学省資料より作成

体育でアスリートを育てるわけではありません。「あの技ができるようになるためにはどうしたらよいか」と、

体の動かし方や運動感覚を身につけ、技を練習する。友だちと話し合つて課題を解決したり、友だちの取り組みを認めたり、協力して場をつくつたりする。そういった中で、体育における資質・能力は育まれます。同時に、生涯にわたつて心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することも、体育という教科の大きな義務だと思ひます。

白旗：今お話いただいた内容が、体育という教科をとらえるうえで、ベースとなる考え方ですね。

大切にしなければいけないのは、スポーツと教育の視点のバランスです。体育においてはこのバランスが「豊かなスポーツライフ」につながっていくと私は思ひます。スポーツにはいろいろな種類があるし、どこまでを目指すのか、どういう関わり方をするのかは人によってさまざまで、一括りにできません。学校教育において必要なことは、一人ひとりが自分に合った運動との関わり方を見つけていくために、発達段階に合わせて知識や技能、運動との関わり方、課題解決の仕方などを学び、基礎となる力を培うことです。そうすることで、スポーツと教育の視点、両方をバランスよく育んでいけるのではないのでしょうか。

主体的・対話的で深い学び

白旗：塩見調査官はいろいろな所で体育の授業をご覧になっているかと思ひますが、「主体的・対話的で深い学び」の視点で見た授業改善の成果として感じている点を、教えていただけますか。

塩見：多くの成果があるかと思ひますが、今回は二つに絞つてお話しします。

一つ目は、技能の指導に偏ることなく、資質・能力の三つの柱をバランスよく育てる授業になってきているところが、大きな成果の一つとして挙げられます。

二つ目は、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えることを意図した授業によって、**子どもたちが変容していった姿**を見たときに実感しました。

若手の先生が、初めて「タグラグビーを基にした易しいゲーム」の指導に挑戦した授業を見学したときでした。単元の最初、子どもたちは規則がわからずおもしろくないので意欲が上がらない。得意な子は苦手な子を責めて、責められた子はやる気を失う、といった悪循環に陥って、よい授業とは程遠い状態でした。そんな中で先生は、「する・みる・支える・知る」の視点で、運動やスポーツとの多様な関わり方を先生自身がお手本となって実際に見せたのです。たとえば、ゲームを一生懸命見て、「いまコートの右側が空いたよ」とアドバイスして支える大切さを示したり、まとめの時間でもそういう姿が見られたチームを価値づけていたりしました。すると子ども同士でも友だちを励ましたり、お互い意見を出し合って作戦を考えたりする姿が見られるようになりました。その結果、チームがまとまり、技能の習得につながっていきました。



白旗：とてもよい成果ですね。一方で、課題に感じる点としては、どんなものがありますか。

塩見：3点あります。一つ目は、**何のためにといった目的よりも、何をするかといった方法が議論の中心になってしまふところ**です。子どもたちの資質・能力を偏りなく育成するために、この主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が示されたという点を先生方には改めて意識してほしいと思います。

白旗：日本の先生は真面目なので、形から入るところがありますよね。そうすると中身が伴わない危険性もある。成果として、子ども主体の授業を展開しようという意識のある授業が増えたと感じますが、形だけで目的を理解せず結果的に主体性を育んだとは言えない授業もたしかにあると感じています。

塩見：二つ目は「対話的」という言葉に着目しすぎてしまい、**必然性のない対話の時間を設けてしまう点**です。対話

をすることで運動をすることが更に楽しくなったり、理解度が高まったり、そういう学びの時間が設けられるように、授業研究を深めていただきたいなと思います。

白旗：子どもたちがよい対話をするには、対話をしたくなる状況をつくるのが大切です。加えて先生は、何を対話したらよいかを整理する必要もあります。授業での対話は課題を解決するためにするものです。

塩見：三つ目は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の**すべての学びを45分間の中に詰め込んでしまう点**です。1回の授業ですべてを実現させようとするのではなく、単元や学期の中でどのような活動を位置づけると子どもたちにどんな力が育つのか。指導と評価の計画をいま一度見直して取り組んでみていただきたいです。

よい授業をするには

白旗：塩見調査官は、「よい授業」をするためには、どんなことが大切だと思いますか。

塩見：「子どもたちの学力を保証できる授業」ととらえたときに、大切にしてほしいことを四つお伝えします。

一つ目は、**子どもたちをしっかりと理解すること**。子どもたちの現時点での姿を受け止めて、苦手な子どもにも寄り添い共感しながら授業をスタートする。そのためには、前年度の授業内容や、帰宅後の運動時間、これまでの運動経験など、子どもたちを取り巻く教育条件・教育環境を把握していこうとすることが大切です。



白旗：児童観のお話ですね。子どもをどう見るかがスタート地点だと、私も思います。もう一つ大切なのが、**運動とのよい出会いをつくってあげる**こと。楽しいだけで終わらずに、運動が苦手な子どもでも「これならできそう」という有能感を保証する。自分に合った課題解決ができる状況をつくってあげることで意欲も湧いてくるし、主体的・対話的で深い学びにもつながっていくと思います。

塩見：二つ目は、**教材研究を大切にすること**。先生も実際に体を動かしてみたり、周りの先生と一緒に学び合ったりしてみる。そのときの気づきを教材研究に生かすことが大切です。

さらに、子どもたちから見た運動の楽しさ、魅力をとら

え直して教材研究をすること。そのうえで、単元を通してどんな力を身につけさせたいかまで考え抜いて授業に臨むことが大切だと思います。

白旗：子どもたちにどのような学びを作るかというところに、教材観がありますね。あるとき、バレーボールの全日本クラスで活躍している大学の教え子もってきた模擬授業の内容が単元を通して練習ばかりするような授業の指導案でした。「苦手な子どもでも楽しめるようにキャッチバレーにしてみたら？ 少しでもバレーボールを楽しみと思えるように学びやすくルールを変えたものが教材だよ」とアドバイスをしたところ、その模擬授業を受けた子が「今まででいちばん楽しい授業だった」と言ってきてくれたことがあります。**どの子どもでもできるようにしたい、上手になりたいという気持ちをもっている**ので、その気持ちに寄り添って教材をつくっていくというのが大事だと考えています。

塩見：三つ目は、**指導力を向上させること**です。「子どもたちをしっかりと理解する」「教材研究をする」、この2点を具現化していくためには、指導力をコツコツと向上させていくことが欠かせません。

私が教師だったころは、指導案を毎日一つ作成し、授業に臨んでいました。指導案通りにいかないこともあります。成り行きに任せた授業と、プランを練った授業では様相が変わってきます。プランを練った授業では学習の展開だけでなく、具体的な支援も明確になっているからです。プロとして授業内容を理解し、具現化していくプランをもつことが求められると思います。

白旗：指導観について、今の指導案はざっくりと書かれているものもあるので、細案を書いておく必要があります。**子どもたちがどう反応するか、それにどう対応していくかを書いておく**。ノープランで授業に臨むのは、プロではないと思います。ベースをもっておいて、その場に合わせた変えていくとよいですね。

塩見：四つ目は、**高まり合う学習集団づくり**が欠かせないと考えます。子どもたちが安心して自分を出せて、お互いに学び合えるようなクラスにしていくことが大切です。すべての教科等を通じて、お互いを高め合うことのできる学習集団にしていくことで、体育の授業でも相乗効果が生まれると考えています。

個別最適な学び

白旗：令和の日本型教育という方針が出てきて、その中でも「**個別最適な学び**」という点がキーワードだと思うのですが、これについて体育の視点からお話をお願いします。

塩見：具体的な例でお伝えしたいと思います。先日、鉄棒運動の授業を参観し、一人の子ども、A児に焦点を当てて

見ていました。A児は、補助逆上がりに取り組んでいましたが、その授業ではできるようになりませんでした。私はその時、残り3時間の授業ですべて補助逆上がりに取り組んでも、結果として技の習得ができず、「できた」という実感がもてなかったり、ほかの技に挑戦する機会も乏しくなってしまうのではないだろうかと思念しました。

事後に指導者に確認すると、学級のすべての子どもの習得状況の一覧を見せてくれました。次の時間に個別に関わる子どもたちもすでに決められていて、A児もその中に含まれていました。その先生は、授業が終わったときに、次の授業で個別に関わる子を4~5人決め、何を指導するかまで決めていたのです。

白旗：学習カードも今ではデジタルデータで活用できます。事前に児童の情報を得るために学習カードが大いに役立ちます。その先生は、それを実現していたのですね。

塩見：この事例は、先生の視点から整理した概念である「個に応じた指導」であり、これを子どもの視点から整理した概念である「個別最適な学び」を具現化していると思います。つまり、**新しい概念が降ってわいてきたわけではなく、これまで先生方が取り組んできたことが「個別最適な学び」につながっている**のです。子ども任せにするのではなく、先生の指導があってこそ、学びが成立するんだということをこの先生の指導から改めて感じました。同時に、個別最適な学びを推進していくときに、**孤立した学びに陥らないよう、協働的な学びを充実させていくことも重要**であるということを伝えたいです。

白旗：以前から「個別化・個性化」という言葉は使われてきましたが、今のお話で「**指導の個別化**」と「**学習の個性化**」が整理され、非常にわかりやすくなったと思います。

個別最適な学び

学習の個性化



指導の個別化



「指導の個別化」というのは、先生が子どもたちの学びで出てきた課題を整理して、重要なものを選んで、その課題にみんなで取り組みながら、基礎的な技能や知識を身につけたり、学習の仕方を学んでいったりするための手法です。「学習の個性化」というのは、子どもが取り組みたいものを選択して、自分に合ったやり方で学習を進める方法

です。いきなり何もいまま子ども主体で運動させても、結局課題の解決ができないまま終わってしまう。「指導の個別化」がベースにあって、「学習の個性化」につながるので、「指導の個別化」がないまま「学習の個性化」をしようとすると、よい解決につながらず学習が定着しにくいんです。

この二つの言葉の違いを聞いても、答えることができない先生も多く、学習に反映できていないことに危機感もっています。子どもたちの個別最適で協働的な学びを実現するためには、先生方の最適な学びを支援していく必要性もあると考えています。

ICTの活用

白旗：個別最適な学びの代表格がICT活用だと思います。ICT活用については、どう考えていますか。

塩見：昭和40年代前半と、令和の体育の授業の写真を持ってきました。昭和40年代の写真では、先生がビデオカメラを持っていたり、OHPを使って技のポイントを解説したりする姿が写っていて、準備・片付けが大変だったということが伝わってきます。一方で令和の授業は、子どもたちがICT端末を使用して仲間を撮影したり、動きのポイントを仲間と一緒に見たりしています。手軽にICT端末を使用できる時代になってきているということがうかがえると思います。

どちらの写真にも共通するのは、先生方は子どもたちが「できた、楽しかった」と言えるような授業にするために、試行錯誤しながらICT端末を活用している点だと思います。令和においてICT端末がより使いやすくなりましたので、これを使わない手はありません。

子どもたちが社会に出たときに、運動やスポーツを行うさまざまな場面でICT端末を使いこなすことが日常的になるのは、想像に難くないでしょう。学習活動を工夫する取り組みの中で、ICT端末の効果的な使用を積極的に続けていくことが大切です。



▲昭和40年代に撮影された体育の授業



▲令和4年に撮影された体育の授業

ただ、座学で満足して、友だちや仲間と体を動かすことが疎かにならないようにしたり、孤立した学びに陥らないようにしたりすることには、十分に留意が必要です。

運動の仕方、知識の習得においてすべてをICT端末に委ねるのではなくて、より効果的な活用場面を先生が取捨選択しながら、活用していくということが求められていくと思います。

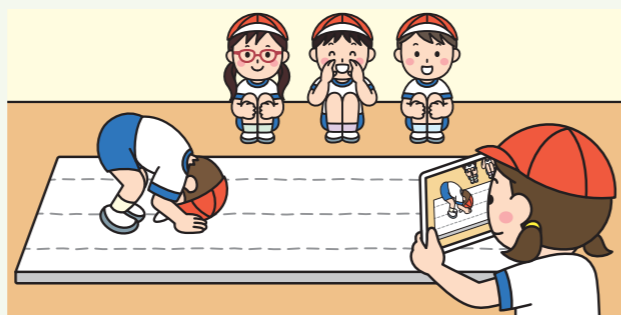
白旗：今はタブレットも登場して、体育の授業でもICT端末を取り入れやすくなりましたよね。私もいろいろな所でICTを活用した授業を見てきましたが、その中で、大きく五つの使い方があると感じています。

1 動きの提示

先生のタブレット画面を大きなスクリーンに映したり、インターネットを通じて子どもたちに映像を配信したりして、その場で動きを確認します。

2 子ども同士の撮影

友だちの動きを撮影して、自分やグループで確認します。昔から行われていて、使われ方としていちばん多いパターンです。



3 動きのポイントや、課題の整理

ICT端末の中で、動きのポイントや課題を付箋で貼ってまとめたり、整理したりします。「ロイロノート」というアプリなどがよく使われます。

4 学習カードとしての活用

学習カードに記入し、終わったら先生にデータを送ります。先生も学習カードを一覧で見られるし、振り返りの際の活

用にも便利です。

5 宿題としての活用

お手本の映像が先生から送られて、それを自分の撮った映像と比較しながら課題を整理します。予習を配信して、達成したい目標を設定した上で、授業に臨む。とはいえ、宿題としての活用はなかなか難しいのが現状で、実際にできている学校は少ないようです。

体育の授業で動きを理解するって、簡単ではないですよ。動きの理解には、三段階必要なんです。第一段階は、耳で聞いて頭で理解する。第二段階は、やっているところを見せてもらって、目でイメージする。第三段階は、体で実際にやってみて理解する。ICT活用は、この三段階のうち、

先生方へのメッセージ

常に子どものことを思いながら語っている塩見調査官の姿は、先生方が共感される姿勢そのものだと感じました。

学習指導要領の中で体育の授業づくりのこだわりを示しているのは「運動の楽しさや喜び」という言葉だと思っています。子どもたちが運動を「楽しい」と思うことから始まり、興味をもって学び、できたという「喜び」につながる授業をすること。そして子どもたちが楽しんだり、喜んだりする姿を見ることで、先生が自信をつけていけると、よい流れになっていくと思います。

授業を通して自分の可能性を感じられるような体育になっていくといいなと。体育はそういう力がある教科だと思っています。

ただし、体育は広い空間で子どもたちが動きながら、深くかかわりあって授業を展開しますし、準備片づけなどの負担も大きい。こうした体育の独自性を解決する情報提供が必要だと思っています。



白旗先生

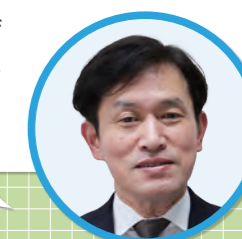
二段階目の目でイメージするところで有効ですが、万能ではないことも理解しておかなければいけません。

例えば跳び箱だと、強く踏み切るとはわかっても、その感覚は実際に跳ばない限りわからないですよね。ICTで理解できることと、実際に体を動かさないと理解できないことがあるということも、教師はわかって使う必要があるなど感じています。

これから先に、取り組んでいかなければならないのは、どの領域のどの場面、どのようにICT端末を使ったら有効かを探っていくことです。教師がICT端末のよい使い方をきちんと見つけていくことが、必要ですね。

地元の体育研究会の先生方や、学校の体育部の先生がつくれた指導の手引や過去の指導案を長きにわたり拠り所にして、授業内容を決めている先生方も多いと思います。それも大切なことではありますが、時代や子どもたちの実態に合わず、「楽しなかった」「できなかった」といった思いをする授業になってしまうことも考えられます。それを避けるためには、今の時代や子どもたちに合った授業をすることが大切です。子どもたちが「楽しかった」「できた！」と言える授業作りの道しるべとして、光文書院の出しているT-Navi Eduやデジタル教材などは非常に有効なのではないでしょうか。

子どもたちには、予測が困難な時代を生き抜いていくために、主体的・対話的に深く学んでいけるように頑張ってもらいたいと思っています。そうした学びが実現されるよう、先生方は、毎時間、小さくてもいいので、子どもたちが課題を解決できるような指導・支援をコツコツと行っていくことが重要です。その実現のために、私たち教育行政も環境を整える努力をしていきたいと思っています。



塩見先生

子どもたちの安全を守るために

いのちの安全教育の実践

子どもたちを性犯罪・性暴力から守る教育として、文部科学省は「生命の安全教育」の教材と指導の手引きを令和3年4月に発表しました。2023年度から全国の小・中学校での活用を目指しています。実際にモデル授業校で行われた授業事例と、成果と課題について紹介します。



田岡 朋子

東京学芸大学附属竹早小学校
養護教諭

「生命の安全教育」実施の経緯

東京学芸大学附属竹早小学校は東京都文京区に位置し、児童は23区内全域から、公共交通機関を使い、広域通学をしています。そのため、学校に在籍する児童が道路や公共交通機関などの公共空間において、面識のない加害者から、声かけ、わいせつなどの性被害を受けた事例が毎年発生し、保護者や担当する教員から、対応や予防についての相談を受けることがあります。

その相談内容から、被害に遭った子が他者に話しにくい内容であるという点に加え、性犯罪について学ぶ機会が少なく、相談先を知らないなどといった課題が見えてきました。こうした子どもたちが、被害に遭わないだけでなく加害者や傍観者にならないために、性犯罪について学ぶことはもちろん、そこで得た知識や意識の変化を実生活に生かせる機会を確保することは重要です。東京学芸大学附属竹早小学校では、令和3年度、4年度と文部科学省「学校における生命（いのち）の安全教育推進事業」を受託し、モデル事業校として実践を行ってきました。

今回は、令和3年度・令和4年度の5年生の取り組みを紹介します。



▲授業実践の様子(5年生)

取り組み概要

- 1 学年：小学1・3・5年生
- 2 指導形態：学年一斉（1・3年生）
学級別（5年生）
- 3 教科：特別活動（1年生）
総合的な学習の時間・
体育科保健領域（3・5年生）
- 4 指導時間：1単位時間（45分）
- 5 指導者：養護教諭（担任・生活指導主任）
- 6 生命の安全教育全体目標：
「自分や友だちを守る力を育てよう」
- 7 指導内容：自他の尊重・水着で隠れる部分・
心と体の距離・SNSの危険性

発達段階別目標

▶ 1～3年生

- 1 自分や友だちの心や体を大切にしよう
- 2 大切な友だちとよりよい関係を築こう
- 3 被害者にも加害者にもならない
行動について考えよう

▶ 4～6年生

- 1 自分や友だちの心や体を守るために
できることを考えよう
- 2 自分を大切にする
「人との距離（付き合い方）」について知ろう
- 3 ネットゲームやSNSの危険性について
考えよう

実践内容について

① 導入の工夫

アイスブレイクには「わざと負ける後出しじゃんけん」を取り入れました。後出しで負けることは、「じゃんけんは勝つもの」という思い込みに引きずられ、やってみると意外に難しいものです。頭でわかっている、勝つ行動をとってしまう子どもが多く見られました。

この導入で、まず自身に強く染みついた、無意識の思い込みを自覚させます。また、中盤に学習する「心の距離感」に関連し、「思い込み」によって誰かを傷つける可能性のある言動について考えるための伏線としました。

② 児童の実態データをフル活用

事前・事後にウェブアンケート（タブレットを使用）を実施し、結果を円グラフや棒グラフにして授業で提示しました。アンケート結果から、自分が大丈夫だと思うことも、他の人にとっては嫌だと感じることもあるのだという「気づき」が生まれることをねらいました。

また、事前調査を早めに行うことで、個別に指導すべき児童の把握に役立つだけでなく、指導上重視されるべき観点と児童の意識との間に乖離がある部分をつかんで指導内容を焦点化することができ、限られた時間の中でも効果的な指導が可能になります。

③ 文部科学省の推奨教材※1とオリジナル教材

令和3年度の実践では、保健分野（5年）「心の健康」とからめ、学校で起こりやすい友人関係での悩みについて、スマホのグループチャットでの会話（学校でお菓子を食べることを誘われ、断りづらい会話の流れ）を例に出し、自分と相手の気持ちに配慮した断り方や、自分の気持ちの伝え方を考えさせました。また、SNSの使用について、推奨教材の「SNSを使うときに気をつけること」のスライドを使って、被害に遭わないための予防法や被害に遭ってしまった場合の解決方法を話し合う活動を行いました。

令和4年度の実践では、バウンダリー（心の境界線）について扱いました。ワークシートを使って自分と家族、友達、周囲の人との心の距離を可視化させ、それぞれと

の距離感の違いや相手のバウンダリーを尊重した伝え方や断り方を考えさせました。また、バウンダリーのわからない顔の見えない相手とのやり取りの危険性や、グルーミングなど心の距離に付け込む犯罪を例に挙げ、犯罪に巻き込まれそうになったときに「NO（断る）GO（逃げる）TELL（相談する）」行動をとる重要性を歌唱教材※2などを使用して指導しました。

モデル授業校の成果と課題

令和3年度実践では、児童同士で仲がよいほどノーと言えないことに着目し、いじめの問題とも関連する「お菓子をこっそり学校に持ってくるように友人から頼まれる」という推奨教材にはない状況事例も取り上げ、「プライベートゾーン」と「距離感」に特化した授業を展開しました。しかし、実施してみると指導が「知識・理解」に関する内容に偏ったため、考えを友達と共有したり、異なる思いに出合ったりすることで自分の考えを深める時間（思考・判断・表現）の拡充が必要だと感じ、授業構成の見直しを図りました。そして令和4年度の実践では、自分のバウンダリー（心の境界線）を知り、友達との違いを理解したうえで、お互いを尊重するためにどうしたらよいかを考える時間を十分に確保するようにしました。

また、令和3年度の実践では、実際に被害経験があるとの反応を示す児童が授業中に見られたため、二次被害への注意が必要であることも考慮して、指導をしていかなければならないこともわかりました。

以上のことから、既存の教材だけでは不十分な点を、学校の実情に合わせて見直し、授業構成を修正・追加するなどの柔軟な対応をしていくことが大切だと考えます。さらに、授業ではカバーしきれない子どもが実際に被害に遭った場合の教員や保護者の心構え・対応等について知っておくことも重要です。東京学芸大学附属竹早小学校では、令和4年度から、性犯罪・性暴力被害防止のための子ども・教員・保護者向けの動画や資料を、note：東京学芸大学・附属竹早小学校「子どもの安全教育プロジェクト」※3で発信しています。ぜひ参考にしてください。

参考資料



※1
文部科学省の推奨教材：
生命の安全教育

https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html



※2
歌唱教材
「NO GO TELL」

<https://youtu.be/aGyNCVJ0Xjc>



※3
note：東京学芸大学・
附属竹早小学校「子どもの
安全教育プロジェクト」

https://note.com/safety_education

子どもたちと考えたい

自分も相手も大切にする コミュニケーション

保健の学習では、5年「心の健康」で、人とのよりよいコミュニケーションが大切であることを学びます。他者との関係性づくりという視点で、今子どもたちに伝えたい内容を、令和6年度版小学校保健教科書の監修者である渡邊正樹先生に伺いました。



新しい『小学保健』で学べる「^{いのち}生命の安全教育」の視点



渡邊 正樹
『小学保健』監修
東京学芸大学名誉教授

「生命の安全教育」では、小学生は「自分だけの大切なところ」、「自分と他の人を守るためのルール」、「自分と他の人との距離感」、「SNSを使うときに気をつけること」などについて学びます。これらは他教科にも範囲の及ぶ内容ですが、保健は特に重要な学習の機会となります。新しい光文書院の教科書には、5年生の「心の健康」の「はってん」に、「自分と人とのきより感」が取り上げられています。性暴力のきっかけの一つとして、自分と他の人とは「いやだ」と感じる距離感の違いがあり、自分の距離感が他の人に守られないと不快な気持ちになり、性暴力にもつながる危険性があります。人との距離感を守るためには互いに同意が必要であり、それが守られない場合は「いやだ」と相手へ伝えたり、信頼できる大人へ相談したりすることを学びます。また、人との距離感は身体上の距離感だけではなく、SNS使用の場面でも当てはまります。SNSを通じてしつこく誘ってくるような場合も、自分の距離感を守ることが大切です。



ここがポイント!
自分のことだけ、相手の考えだけを優先するのではなく、相手の立場にたって考えながら、自分の意見もきちんと伝えることが、よりよいコミュニケーションにつながるということを、事例をもとに考えさせます。

ここがポイント!
「生命の安全教育」の視点を取り入れ、「自分と人とのきより感」をテーマに資料を掲載しています。人によって大丈夫だと感じる境界線は違うこと、自分の体や心の距離感是自己で決めてよいこと、SNSの注意点などをまとめています。

▲令和6年度版保健教科書
『小学保健5・6年』P.18-19

令和6年度の新しい教科書の詳細は、Webサイトでも紹介しています。
詳しくはこちら▶▶



光文書院からの
お知らせ

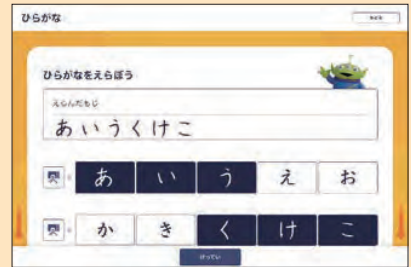
デジタルドリル『ドリルプラネット』 8月末アップデートのお知らせ

6月末に漢字判定基準の選択機能や算数の問題が追加され、多くの児童と先生に利用されているドリルプラネットですが、8月末には2つのアップデートを実施予定です。T-Navi Eduでは、その内容をご紹介します!

★ \\ 多数のご要望にお応えして、ついに対応! // ★

アップデート① ひらがな・カタカナ学習

1年生の学習コンテンツに「ひらがな・カタカナ」を追加。「とめ・はね・はらい」「字形」「筆順」を自動判定します。また、全メニューに音声機能を搭載しています。読み書きが苦手な児童に最適です。



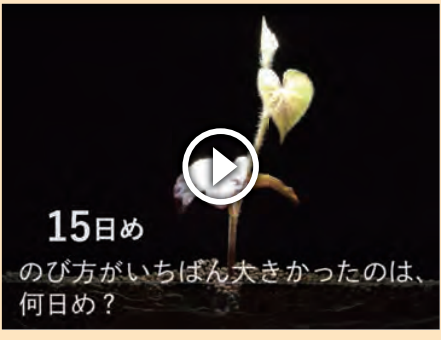
▲50音表から自由に字を選択して学習できる。
© Disney/Pixar



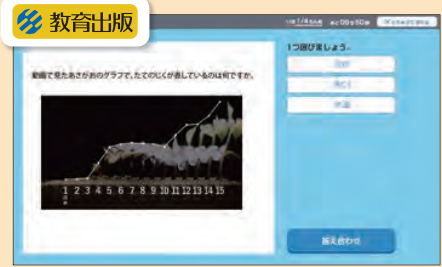
▲その場ですぐに自動判定。

アップデート② 目で見る算数の動画を追加

4～6年生の算数に教育出版の『目で見る算数』動画を追加。身近なものを題材としたわくわくする動画で、児童の興味・関心が高まり、新たな発見が生まれます。動画視聴後には、確認問題に取り組むことができます。



15日め
のび方がいちばん大きかったのは、何日め?
▲「あさがおのグラフ」4年 折れ線グラフ
総合監修：佐藤雅彦/企画・制作：ユーフラテス
音楽：堀江由朗/発行・販売：教育出版



▲動画視聴後に取り組める確認問題。



「目で見る算数」のサンプル動画はこちら



\\ 特設サイトがございます! //
ドリルプラネットの詳細はこちら >>>



光文書院のデジタルドリル

『ドリルプラネット』



紙ドリルとの
セットプランも
大好評!



© Disney/Pixar

ドリルプラネットとは?

ドリルプラネットは自主学習機能と宿題配信機能を備えた小学校向けデジタルドリル（国語・算数）です。紙とデジタルのいいとこどりで、児童が「学ぶ楽しさと出会う」チャンスを広げます。

△ ご好評の声が続々! △

自主学習機能で児童が自分のスピードで学べるのもよいし、他学年の問題に取り組めるのもよいです。



正解したらポイントが貯まったりスタンプがもらえたりするので、児童が意欲的に取り組むことができました。



漢字の書き順や、とめ・はね・はらいを確認できる点がよいと思います。



学期50円で漢字も計算も使える! 紙ドリルとのセットプランをご用意!

	学期刊紙ドリルご購入の場合	上下刊紙ドリルご購入の場合
紙ドリルとの セット販売価格(税込)	学期刊:50円(年間:150円) 対象教材:くりかえし漢字ドリルD 横進み式くりかえし計算ドリルY 漢字ぐんぐんスキル	上刊:80円 下刊:70円(年間:150円) くりかえし漢字スキルS 国語ドリル 書き込み方眼ドリル計算ぐんぐん
単品販売価格(税込)	年間:1,800円(利用開始月により月150円ずつ減額)	

※ドリルプラネットの申し込み後に紙ドリルを申し込みされた場合、セット販売価格を適用できません。単品販売価格でのご提供となります。
※ドリルプラネットは1IDで国語と算数のどちらも学習できます。教科ごとの分売はできません。
※教師1名につき1つ、教師用児童アカウントのお申し込みが可能となります。注文時に教師数をお知らせください。
なお、教師画面利用料金及び上記アカウント料金は、いずれも児童用の利用料金に含まれますのでご安心ください。

先生方へ

光文書院より
目より情報!

光文Webサイト ドリルプラネット特設サイトのご案内

特設サイトにて

ドリルプラネットの最新情報を掲載中!

特設サイトでは、体験版をはじめドリルプラネットの最新情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

詳細はこちら

